

惠迪寮

寮歌集(二)

目次

一 水産放浪歌

1
} 2

二 若人よ

3
} 4

水産放浪歌

富貴名門ふうきの女性に恋するを純情の恋と誰が言うぞ。

暗鬼紅灯こうとうの巷さまよに彷徨う女性に恋するを不情の恋と誰が言うぞ。

雨降らば雨降るもよし風吹かば風吹くもよし

月下の酒場にて媚を売る女性にも純情可憐なる者あれ。

女の膝枕にて一夜の快樂げらくを共に過さずんば人生夢もなければ恋もなし。

響く雷鳴 握る蛇輪だりん 睨むコンパスりくぶんぎ六分儀

吾ら海行く鷗鳥 さらば歌わん哉

吾らが水産放浪歌

一

心猛くも鬼神おにがみならず

男と生まれて情なさけはあれど

母を見捨てて浪越なみこえてゆく

友よ兄等よ何時いつまた会わん

一一

朝日夕日をデツキに浴びて

続く海原うなばら一筋道を

大和男子が心に秘めて

行くや万里の荒浪越えて

浪の彼方の南氷洋は

男多恨の身の捨てどころ

胸に秘めたる大願あれど

行きて帰らじ望みは持たじ

若人よ (平成十二年度寮歌)

野路 直之君 作歌

村中 剛洋君 作曲

一

春風興せ 我が若人よ 大地を君の色に染めよ
理知無かりしも 血氣注がば
光明の迪拓かれん

※ 涙たぎりで 白雲を流せば

満月も我等を讃へんや

一矢の猛りが青竜となりで

天に昇るは今この時ぞ

※ (繰返し)

二

使命は未だ 君等が華ぞ 捧げよ汝が情熱
留まり酌みて ただ人を待つ

尽きる事なき我が希望

※ (繰返し)

別れは近く 再会であいは遠し 巢立いとつ友等の愛いとしさよ
君の比翼ひよくの 鳥となりたし
翔けめぐらんかな共に

※ (繰返し)